

◎ 評価対象分野・施策の方針・目標とすべきまちの姿

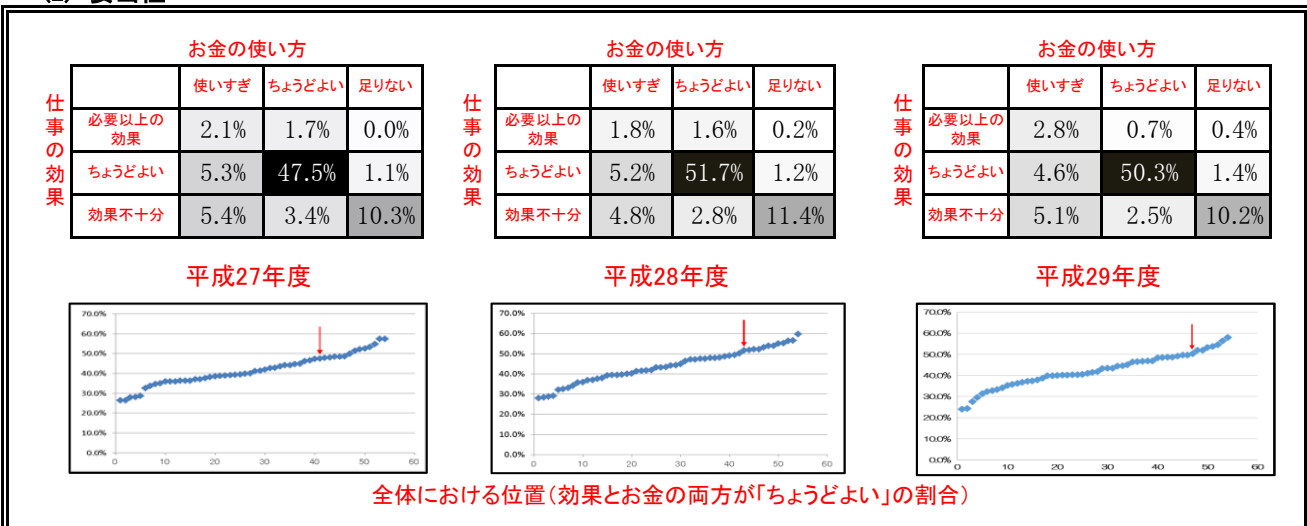
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針	学習環境の整備・充実
目標とすべきまちの姿	生涯学習センター、図書館など本市の生涯学習施設が充実し適正に整備され、利用しやすい魅力ある施設となっています。また、市民が自らの学習内容にあわせて、本市の生涯学習施設、関係機関、学校、民間施設などを効果的に活用することができるなど、学習の場が十分に確保されています。毎年、多くの市民が生涯学習センターを利用し、自らの興味関心にそって自発的に学習する習慣が広がっています。			

1 市民意識調査結果

(1) 認知度

取組を知らない・わからないと答えた人の割合	平成27年度	17.5%	平成28年度	14.6%	平成29年度	17.2%	(回答者全体に占める割合)
-----------------------	--------	-------	--------	-------	--------	-------	---------------

(2) 妥当性



(3) 今後の進め方

	もっと力を入れるべき	現状のままで良い	力を入れなくて良い	無回答
平成29年度	20.2%	51.0%	6.5%	22.3%
平成28年度	21.3%	52.0%	6.7%	19.9%
平成27年度	20.7%	50.8%	5.2%	23.3%

2 内部評価

(1) 平成29年度の目標

- 生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供する。(教育-12、13、39)
- 歴史的公文書選別作業に関する体制整備について検討する。(教育-38)
- 図書館の夜間開館時間延長等の試行を実施し、市民ニーズの把握と効率化、サービス向上に向けた検証作業を行う。(教育-39)

(2) 目標とすべきまちの姿と平成29年度の目標との関連性

- 生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供することで、多くの市民が自らの興味関心に基づいた学習の機会に恵まれ、自発的に学習する習慣を広めることができる。(教育-12、13、39)
- 歴史的公文書選別作業に関する体制を整備し、適正な管理を行うことによって、市民が自らの学習内容にあわせて効果的に資料を活用できるようになる。(教育-38)
- 図書館の夜間開館時間延長等の試行を実施し、市民ニーズを把握することによって、市民が利用しやすい魅力ある施設とすることができる。(教育-39)

(3) 事業評価結果一覧表(網掛けは重点事業)

評価対象事業名		決算値(千円)		総事業費(千円)		職員数(人)		法定受託事務	今後の方向性	
整理番号	事業名	平成28年度	平成29年度	平成29年度	平成30年度	平成29年度	平成30年度		事業内容	予算規模
教育-12	古屋信子記念館管理運営事業	2,237	1,829	11,768	11,375	1.3	1.1		b	A
教育-13	生涯学習センター管理運営事業	153,117	227,057	269,872	208,729	5.6	5.1		a	A
教育-38	市史編纂事業	2,143	2,108	3,641	3,941	0.2	0.2		a	A
教育-39	図書館管理運営事業	130,055	131,053	321,151	313,635	24.8	21.8		b	A

(4) 主な実施内容

【主な実施内容】 ① 古屋信子記念館の維持管理を行うとともに、一般公開業務や施設利用業務などを実施した。(教育-12) ① 生涯学習センター管理業務補助嘱託員の配置や事務用消耗品の購入など、生涯学習センターの運営に必要な事務を行うとともに、生涯学習センターの総合管理、各所修繕や生涯学習ネットワークシステムの保守管理など、施設の維持管理を行った。(教育-13) ② 市史の編さんに伴い、歴史的公文書の候補文書を回収し、文書内容を確認、選別を行った。(教育-38) ③ 効果的な資料収集を図るとともに、市民等のニーズに則した貸出業務、インターネット予約受付などを実施するとともに、図書館業務に必要な嘱託員の配置と諮問機関としての図書館協議会の運営を図った。(教育-39) ③ 平成29年8月から10月の3か月間、大船図書館において夜間開館の延長、玉縄図書館において、新たに創設した専門業務嘱託員を採用し、嘱託職員を中心とした運営体制及び夜間開館の中止の試行を行い、図書館の効率化とサービス向上に向けた検証作業を行った。(教育-39) ③ 図書館の将来像を確立したビジョンの策定に向けて検討を行い骨子案を策定し、また、幅広い意見を取り入れるため利用者懇談会を開催した。(教育-39) 【実施できなかった事業とその理由等】
--

(5) 平成29年度の取組の評価

効率性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な事業費・人件費で執行できていたか	■ 適切	□ 要改善
妥当性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、妥当(適切)な取組であったか	■ 適切	□ 要改善
有効性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、適切な成果が得られていたか	■ 適切	□ 要改善
公平性	「目標とすべきまちの姿」の実現に向け、受益機会が偏っていない(適切な)取組であったか	■ 適切	□ 要改善
<上記評価の理由、改善を要する点の具体的内容等> ① 古屋信子記念館の一般公開に際してツイッターやHPにより周知を行った。また、国の登録有形文化財(建造物)への登録に伴い、鎌倉生涯学習センター・地下道ギャラリーにおいて展示を行った。(教育-12) ② 歴史的公文書選別作業に関する体制を整備するため、平成30年度から専門嘱託員1名を増員する準備を行った。(教育-38) ③ 図書館の夜間開館時間延長等の試行を実施し、市民ニーズを把握し、図書館の効率化とサービス向上に向けた検証作業を行った。(教育-39) ③ 図書館資料の充実を図り、情報の収集、発信に努めた。(教育-39) 以上の事業実施を行ったところであるが、設定した指標の目標値を達成することができなかったため、検証のうえ改善したい。			

(6) 評価結果や市民意識調査結果をふまえ、施策の方針等としての、今後の方向性

① 老朽化している鎌倉生涯学習センターの施設や設備の改修について、公共施設再編計画との整合を図りながら計画的、効果的にすすめ、適切な維持管理に努める。(教育-13) ② 歴史的公文書の選別作業は膨大であることから、今後の体制整備を検討する。(教育-38) ③ 鎌倉らしい蔵書の構築を図り、快適な学習環境を確保するために、施設の維持修繕に努める。(教育-39) ③ 図書館に関する市民ニーズを適格に把握し、効率化とサービス向上に取り組んでいく。(教育-39)
--

(7) 平成30年度の目標

・生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供する。 ・歴史的公文書の選別作業を進めながら、今後の体制整備を検討する。(教育-38) ・9～11月に中央図書館と腰越図書館において、開館時間の試行を行い、図書館職員の体制検討を行い、利用しやすい魅力ある施設づくりとなるよう取り組んでいく。(教育-39) ・図書館のビジョンを確立し、第3次鎌倉市図書館サービス計画を策定する。(教育-39) 指標設定については、目標とすべきまちの姿を見据え検討していく。
--

(8) 目標とすべきまちの姿と平成30年度の目標との関連性

- ・生涯学習施設の適切な管理を行い、利用しやすく快適な学習環境を提供することで、多くの市民が自らの興味関心にそった学習の機会に恵まれ、自発的に学習する習慣を広めることができる。(教育-12、13、39)
- ・歴史的公文書選別作業に関する体制を整備し、適正な管理を行うことによって、市民が自らの学習内容にあわせて効果的に資料を活用できるようになる。(教育-38)
- ・図書館の夜間開館時間延長等の試行を実施し、市民ニーズを把握することによって、市民が利用しやすい魅力ある施設とすることができる。(教育-39)
- ・図書館のビジョンを確立し、サービス計画を策定することで、図書館等資料を収集、整理、保存して市民等の利用に供し、市民自らが教養を高め、調査、研修等に活用される学習環境の整備、充実につながる。

3 主な事業における指標(目標ごとに1つ設定)

整理番号	教育-12	事業名	吉屋信子記念館管理運営事業									
指標の内容	利用者数					単位	人	指標の傾向	↗	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31				
来場者の増加を図るため	目標値	6,850	6,900	6,900	6,900	6,900		6,900				
	実績値	5,368	4,767	4,719								
	達成率	78.4%	69.1%	68.4%								
整理番号	教育-39	事業名	図書館管理運営事業									
指標の内容	貸出冊数					単位	冊	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31				
蔵書の充実を図り、多くの市民に図書館を利用してもらうため	目標値	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000		1,500,000				
	実績値	1,382,363	1,411,599	1,349,752	1,332,565							
	達成率	92.2%	94.1%	90.0%	88.8%							
整理番号	教育-13	事業名	生涯学習センター管理運営事業									
指標の内容	学習センター利用者数					単位	千人	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		H31は耐震改修工事による施設の一部使用休止が予定されるため、目標値を変更した。		
生涯学習の振興状況を図るため	目標値	580.0	585.0	590.0	595.0	600.0		531.0				
	実績値	627.0	560.0	535.0	539.0							
	達成率	108.1%	95.7%	90.7%	90.6%							

整理番号	教育-13	事業名	生涯学習センター管理運営事業									
指標の内容	学習センター利用率					単位	%	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由		年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31			
生涯学習の振興状況を図るため	目標値	75	75	75	75	75		75				
	実績値	68	67	66	65							
	達成率	90.7%	89.3%	88.0%	86.7%							

参考 前年度外部評価結果への対応

鎌倉市民評価委員会からの指摘

課題

- ・アウトカムをどうするかが課題であり、市民ニーズの把握に加え、市民ウォンツもしっかりと捉えていくことが大切である。
- ・利用者数のみを指標にあげているが、数だけで学習環境の整備・充実が計れない。特に学習センターは年代層、男女別、ギャラリー、ホール、会議室、ロビー等別けて統計をとり、分析、今後の指針としてほしい。
- ・「図書館管理運営事業」に課題はないのか。
- ・図書館について、施策の方針が「環境の整備・充実」として「環境の整備」はしているが、「充実」の取組はしていない。
- ・図書館についても冊数では利用者がいつも同じ人となっていないか、広く市民の利用がなされているか、若者たちの学習の場が今は喫茶店などが占められている。この現状をどう考えるか。
- ・吉屋信子記念館の機能は生涯学習機能でよいのか、意地保全などのことも考え、検討が必要である。一般公開することで施設の傷みの問題もあるなか、目標の立て方が入場者数のみで十分でない。
- ・市史の編さんに向け、歴史的資料の整理・保存及び散逸防止を行うことが必要である。



指摘への対応、コメント等

- アウトカム指標については、その評価方法も含め、検討していきます。
- 学習センターの適切な指標設定については、今後検討していきます。
- 現状、図書館の将来像を確立したビジョンがないことが課題であり、現在策定に向けた取り組みを進めています。
- 限られた予算を効果的に活用するための資料選定を行い、充実を図っている。また、様々な年代層に興味を持ってもらえる行事等を計画しています。
- 読書離れが進んでいることから若い世代を図書館に呼び込む必要があると認識している。利用者の拡大に向けて検討を行っていきます。
- 吉屋信子記念館の機能を検討する前提として耐震化は必至であり、現在はその事前段階である。入場者数は耐震化にあたり市民の理解を得る上で必要な指標と考えている。
- 平成24年度から歴史的公文書の選別について補助執行を行い、資料の収集・整理・保存及び散逸防止に向けて取り組んでいます。

提言

- ・各年度の「目標」は具体的な活動計画の記入をお願いしたい。
- ・生涯学習センターの運営に1.5億円＋職員5名が費やされている。「管理運営の民間委託」は検討できないのか。
- ・吉屋信子記念館の管理運営事業がこのカテゴリーにある以上、何か生涯学習に関連した活動が行われてしかるべきであることから、具体的な取組を記載してほしい。
- ・現状は施設運営の中で色々工夫されているようだが、シートからは見えてこないので評価できない。簡潔にでよいので明記してほしい。
- ・この施策の方針は「環境の整備・充実」であるが「環境の整備」に対する取組みは見られるが、「充実」に関する取組が見られない。今ある施設を充実させるという意味では、図書館は身近ということもあり、市民サービスを上げやすい施設であることから、ハードとソフト(サービスを含む)の両面から充実に取組むべき。
- ・貸出冊数の増加など、数値的な指標を策定しているものについては、なぜそれらが増えないのかを分析し、適切な対応策を講じることが重要である
- ・指標において、来場者の増加を図るとしながら、目標値が毎年同じである。現状を分析した上で、適切な目標を設定すべき。
- ・図書館については、例えば「蔵書を月に一度各館に回す等」によりローテーションを組んで自分の近くで借りれるようにするなどのサービスを充実させることにより、人が集中しない仕組みを構築すべき。



提言に対するコメント等(総論)

生涯学習センターの指定管理者制度については、今後の検討としたい。
吉屋信子記念館については、一般公開以外に年間を通じて貸館業務を行っている。
電気設備の老朽化等緊急性の高い修繕を優先的に実施するとともに、トイレの洋式化改修等要望の強い内容の修繕を予算の範囲で適宜実施している。
図書館では、貸出のみならず、様々な世代を対象とした行事等を行い、利用者のニーズに合わせたサービス等の充実を図るよう検討しています。また、資料の収集についても、司書職員による選定会議に基づき、効果的な収集に努めています。
また、図書は巡回システムにより市内5館の何れでも受取及び返却が可能となっています。

鎌倉市民評価委員会の評価

《評価できるところ》

「図書館」のハード、ソフト両面を担当する分野として、図書館の将来像を確立したビジョンの策定、第3次鎌倉市図書館サービス計画に期待する。

評価の内訳						⇒	委員会の評価
取組	↗	2	↘	1	→		→
効果	○	2	△	1	—		—

《課題》

- ・図書館について、施策の方針が「環境の整備・充実」として「環境の整備」はしているが、「充実」の取組はしていない。
- ・「目標とすべきまちの姿」にある「自主的に学習する習慣の広まり」に対する施策にしては全体的に取組が消極的すぎる印象がある。また「利用しやすく快適な学習環境」を提供することで「自発的に学習する習慣」が「広められる」のだろうか。
- ・生涯学習センターは「集会場」としての役割が大半（全体利用者数54万人講座参加者1万人）であり、その位置づけの再検討が必要である。

《提言》

- ・図書館機能の充実が必要と考えるが現在の蔵書内容で市民は満足しているのか？貸出し実績によるは廃棄・スペース確保と市民寄附による蔵書の充実化を図りたい。
- ・学習施設の運営が上手くいっている他の自治体を参考に、運営方法を考えるべきではないか。
- ・「目標」と実施した事業の内容に関連性がない。

《質問》

- ・「専門業務嘱託員」は何のために配置し、どのような効果があったのか？何が効率化されたのか？
- ・何をもって「適切」や「妥当」と判断しているのか？改善の必要性を認めながら、何故「要改善」ではなく「妥当」なのか？